

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年4月8日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから4月8日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、来週は、火曜日に委員会の臨時会議があります。今回は北海道電力の藤井社長との意見交換ということになります。

これまでのCEOとの意見交換とは違いまして、今回は泊3号機の今後の審査の進め方のみをテーマに短時間でやる、新機軸のものになります。

次が、4月12日の（4）シビアアクシデント技術評価検討会です。

これは安全研究プロジェクトについて、有識者の意見を聞くというものでありまして、昨年度に終了した3つのプロジェクトの事後評価を行うに当たって意見を聞くということになります。

次が、4月12日の（6）第1040回審査会合です。こちらは非公開です。

議題は1つで、島根2号機の特定重大事故等対処施設についてということになります。

今回は2回目で詳細な説明を受ける回ということになります。

次が、4月15日の（8）第1041回審査会合です。

議題は2つありまして、1つ目は、伊方3号炉の標準応答スペクトルの規制への取り入れに関する地震動評価ということになります。

2つ目は、浜岡の地震動評価ということで、前回、昨年7月のコメント回答ということになります。

3ページ目に行きまして、委員の現地視察ということで、4月14日から15日にかけて山中委員が視察、現地調査をします。

前回、3月17日は主にALPS関係の施設を見ましたけれども、今回は1号機の建屋内と廃棄物の保管状況を見るということになります。

取材が可能なのは14日の木曜日のほうで、廃棄物保管状況のほうの代表取材と終了後のぶら下がりが可能ということになっております。

説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

では、ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

北海道電力との臨時会議、前、委員会定例会でも出ていたと思うのですが、改めてこれは新機軸というか北電スペシャルなのですか。

○黒川総務課長 北電スペシャルになるか今後も使うかちょっと分からないのですが、いずれにしても前回、北電との審査会合で、こういう論点が残っていてこのようにやる必要があるというのをお互いの間で整理しましたけれども、それを受けて、社長との間でもその認識合わせをするという会で、同じようなことをする価値のある社があるかどうか、個別には分からないのですが、一応その第1段というか、同じようなことをする価値があれば、今後もやっていくというものの第1段ということになるかと思えます。

○記者 あまり規制側が手取り足取りというのはどうなのかという感じもするのですが、その辺についての見解というのはどうなのでしょう。

○黒川総務課長 当然、手取り足取り、そう見えなくもないというところはあるのですが、論点はこうですとあって、このように答えてくれればどうですと言っている中身の話をしているわけではないので、何の論点が残っているというのを整理するのは、お互いの審査の効率化のために有効、その範囲でやっているという話かなと思います。

○記者 しつこくて申し訳なのですが、そういうのは通常の審査会合でちゃんと論点整理をやっているわけであって、わざわざそれをCEOとの間、社長さんとの間でやるということの意義づけというのはどうなのでしょう。

○黒川総務課長 例えば中身としてこういう論点がありますというのが、事務的にお互い理解したとしても、では、それでこの分野をまだ大変な議論が残っていたとして、では、そこに人とかいろいろなリソースを割くかという意味で言えば、リソース配分をする社長さんと意見交換をするというのは価値があることなのかなと思っています。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。